

放射線教育の実施状況調査の結果について

令和 2 年 3 月
文 部 科 学 省
教 育 課 程 課

1. 調査の概要

○調査目的

学校教育において放射線に関する科学的な知識を児童生徒に教えていくことは重要であることから、文部科学省では学校における放射線教育を推進しているところであり、本調査を通じて、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における放射線教育の実施状況と平成 30 年 10 月に改訂した放射線副読本の活用状況について把握し、今後の放射線教育の更なる充実を図ることを目的とする。

○主な調査事項

放射線教育の実施状況

- ・放射線教育の実施の有無、実施した教科等・学年等
- ・実施にあたって活用した資料
- ・実施した際の外部人材等の活用状況

放射線副読本の活用状況

- ・放射線副読本の取扱い（児童生徒への配布状況、保管状況）
- ・放射線副読本の活用の有無、活用した教科等・学年等
- ・放射線副読本を活用した際に有効であった点
- ・放射線副読本の内容や構成等について改善・充実すべき点

○調査対象

全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等から無作為抽出により調査対象学校を選定。（小学校等 1673 校（回収率 100%）、中学校等 1375 校（回収率 100%）、高等学校等 1259 校（回収率 98.6%））

※調査対象学校以外からの調査票の提出有（中学校 2 校、高等学校 2 校）

○調査時期

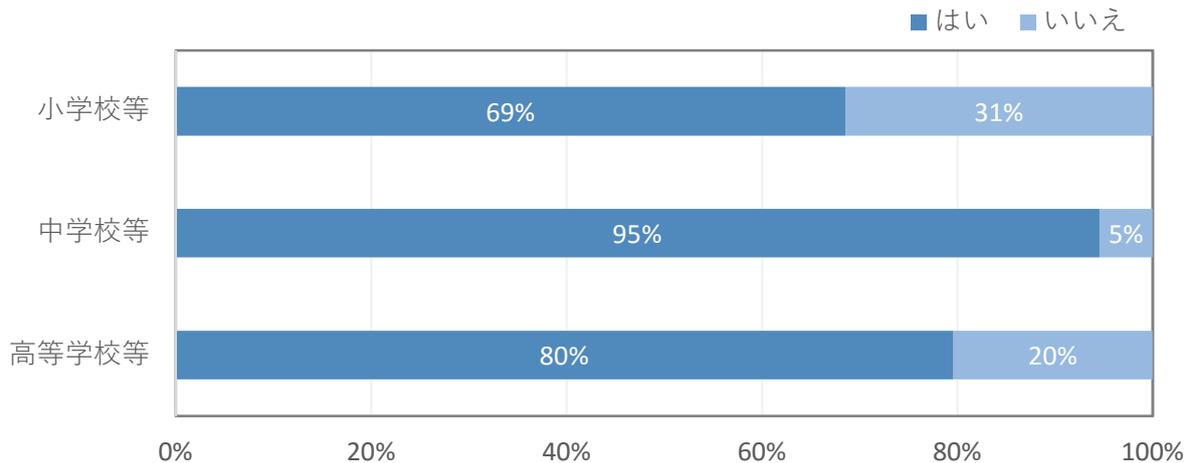
令和元年 12 月 10 日～令和 2 年 1 月 24 日

2. 調査結果

<放射線教育の実施状況>

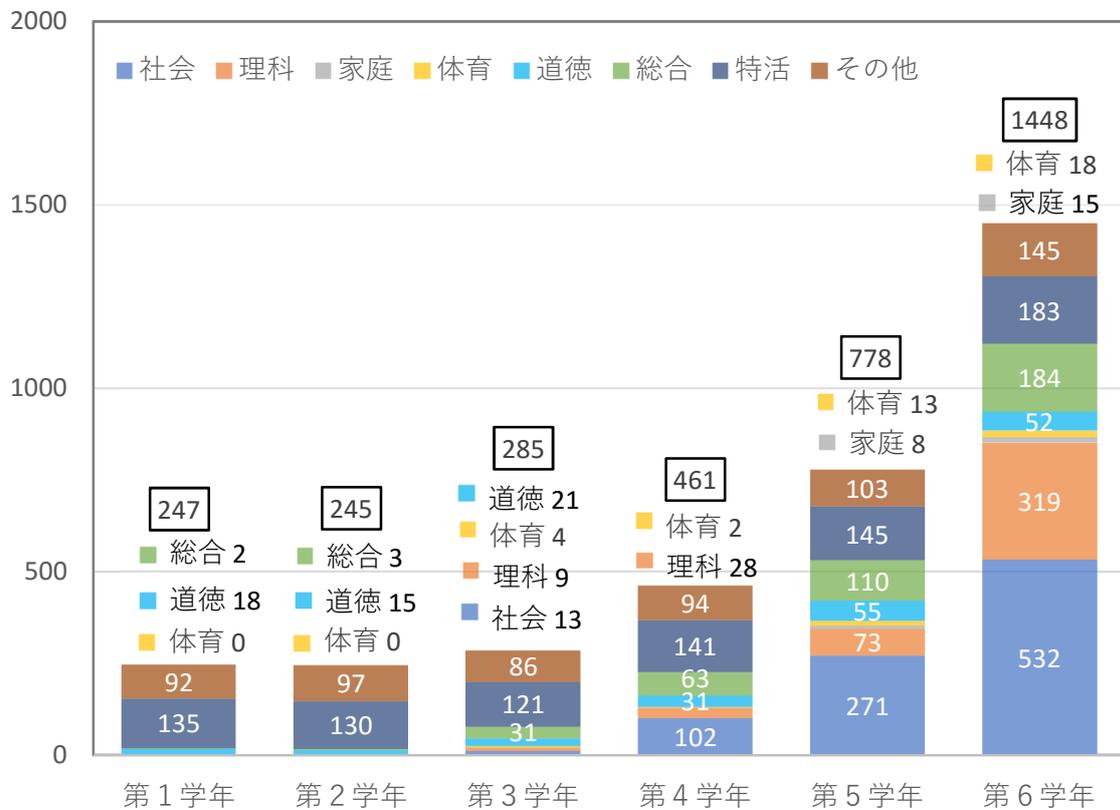
Q1-1 授業等で放射線に関する内容を扱ったことや扱う予定はありますか。

(回答数：小学校等 1673 校、中学校等 1377 校、高等学校等 1240 校)

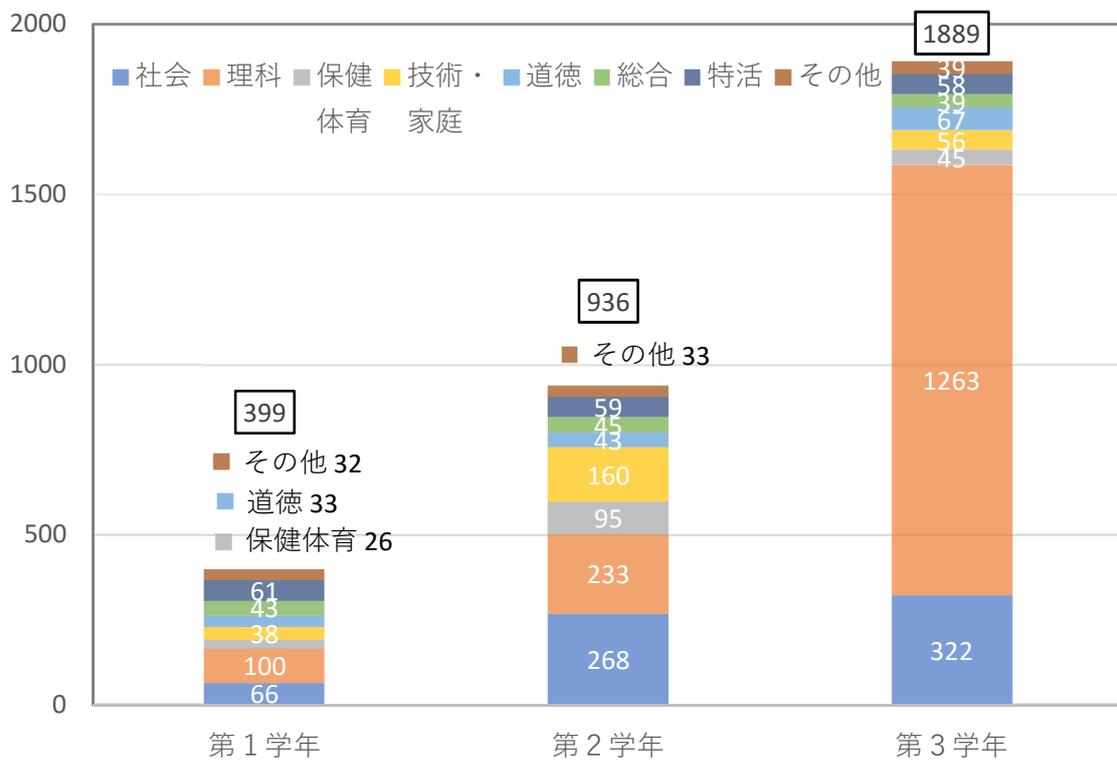


※特別支援学校において児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮して指導が行われていることや高等学校において放射線に関連する教科等が生徒の特性や学校の実態等に応じて選択して履修する科目で構成されていることなどから、一部の学校では放射線に関する内容を扱っていないことが想定される。

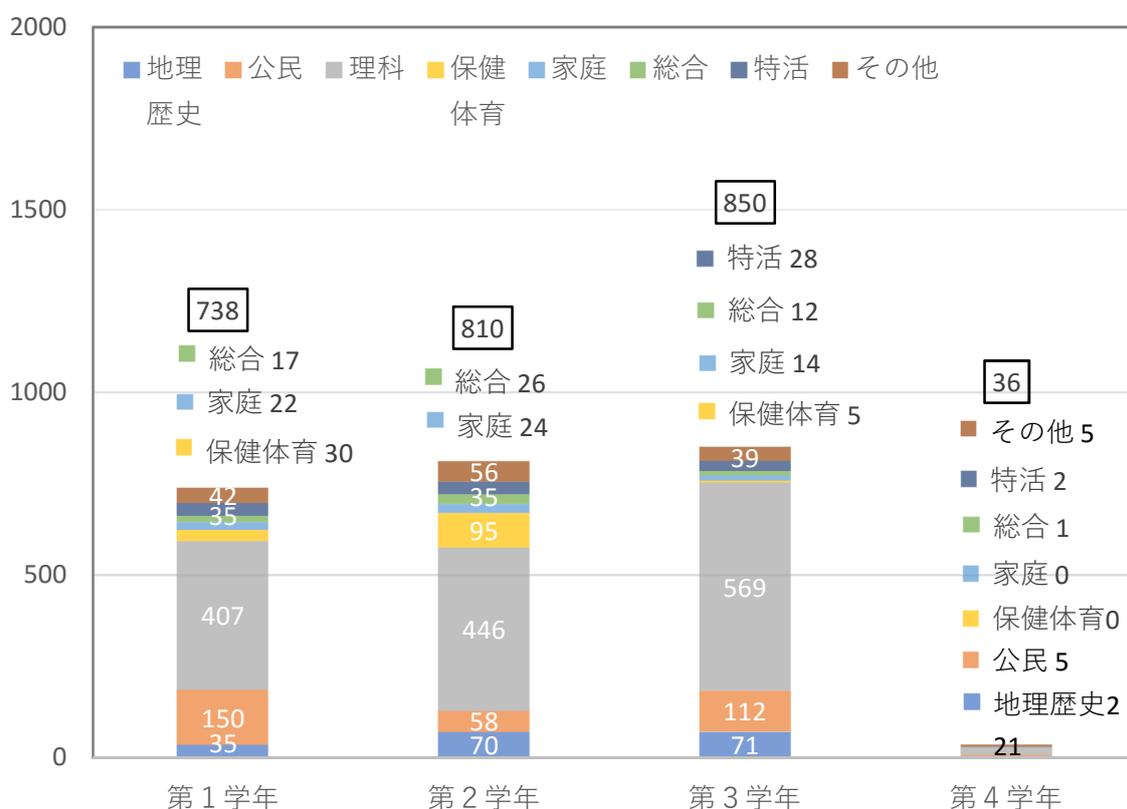
Q1-2 放射線に関する内容を扱った（扱う予定の）教科等・学年（複数回答有）
（小学校等）



（中学校等）



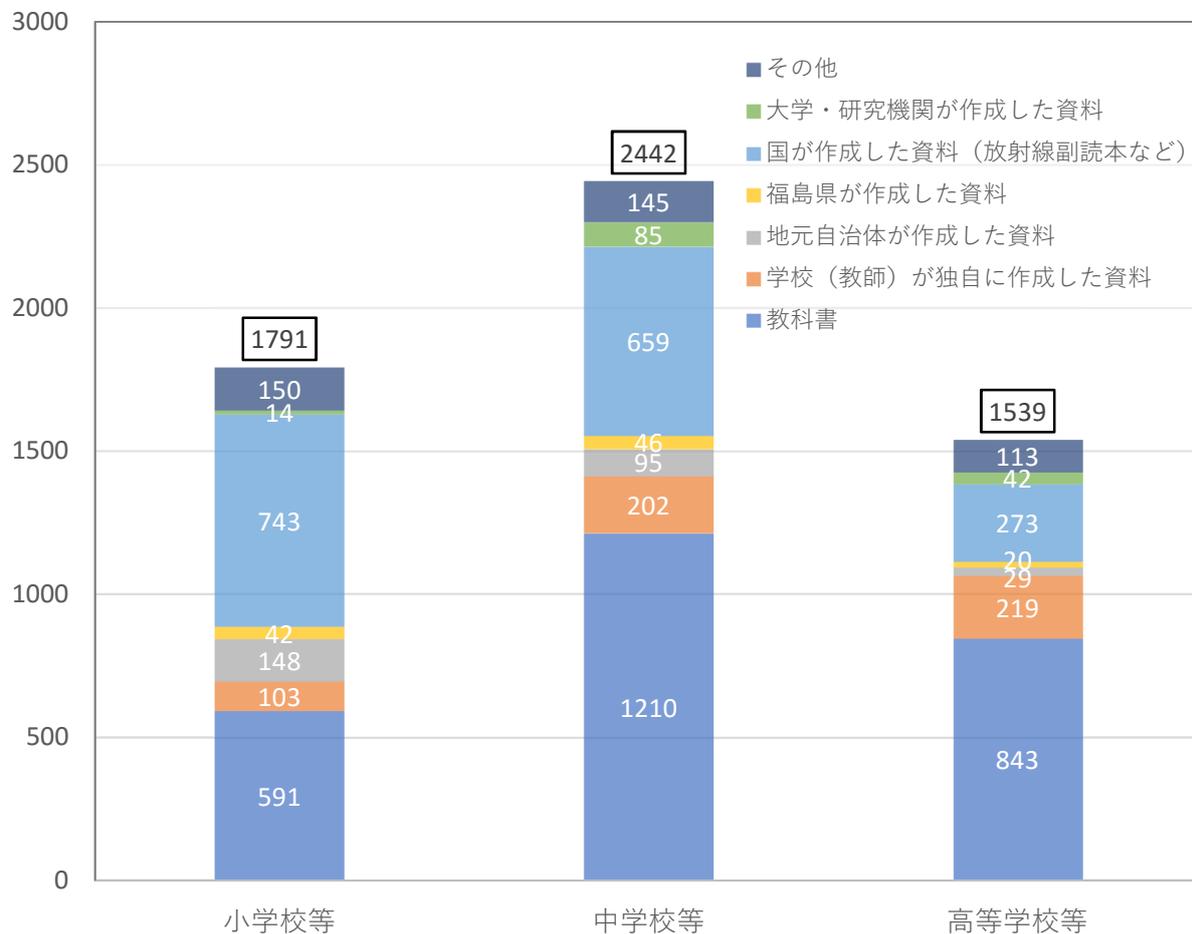
(高等学校等)



○教科等横断的な取組等を行った場合に工夫した点に関する意見の例

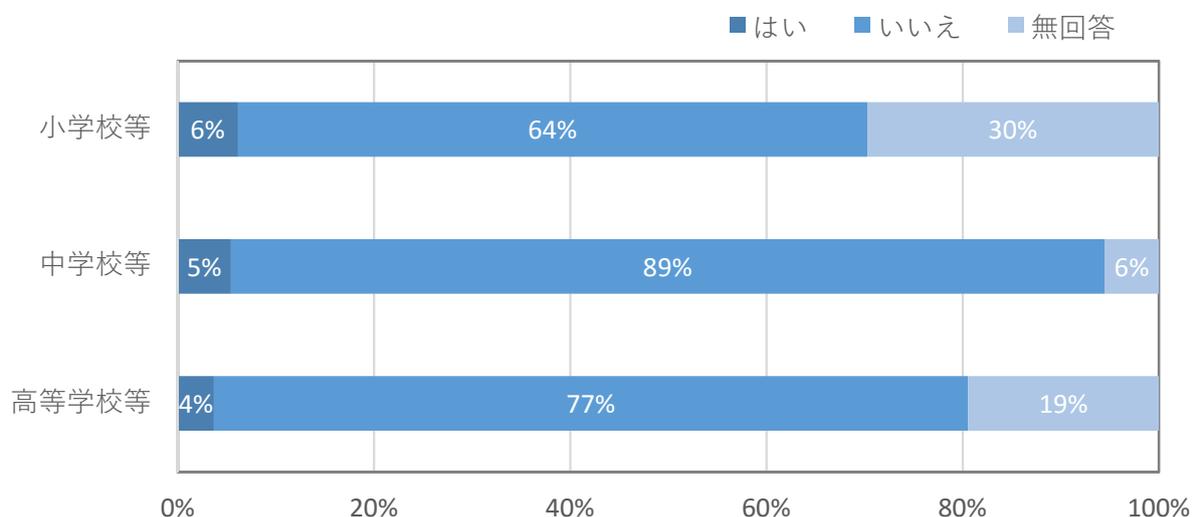
- ・総合的な学習の時間での平和学習（原子爆弾）及び防災学習（地震）、社会科での戦争に関する単元、修学旅行での広島訪問（平和公園・語り部さんの話など）を通して横断的な取り組みとした。
- ・社会科の授業において理科の学習内容を関連させて原子力の利用について学習している。

Q1-3 授業等で放射線に関する内容を扱った時に活用した資料や授業等を行うために参考にした資料（複数回答有）

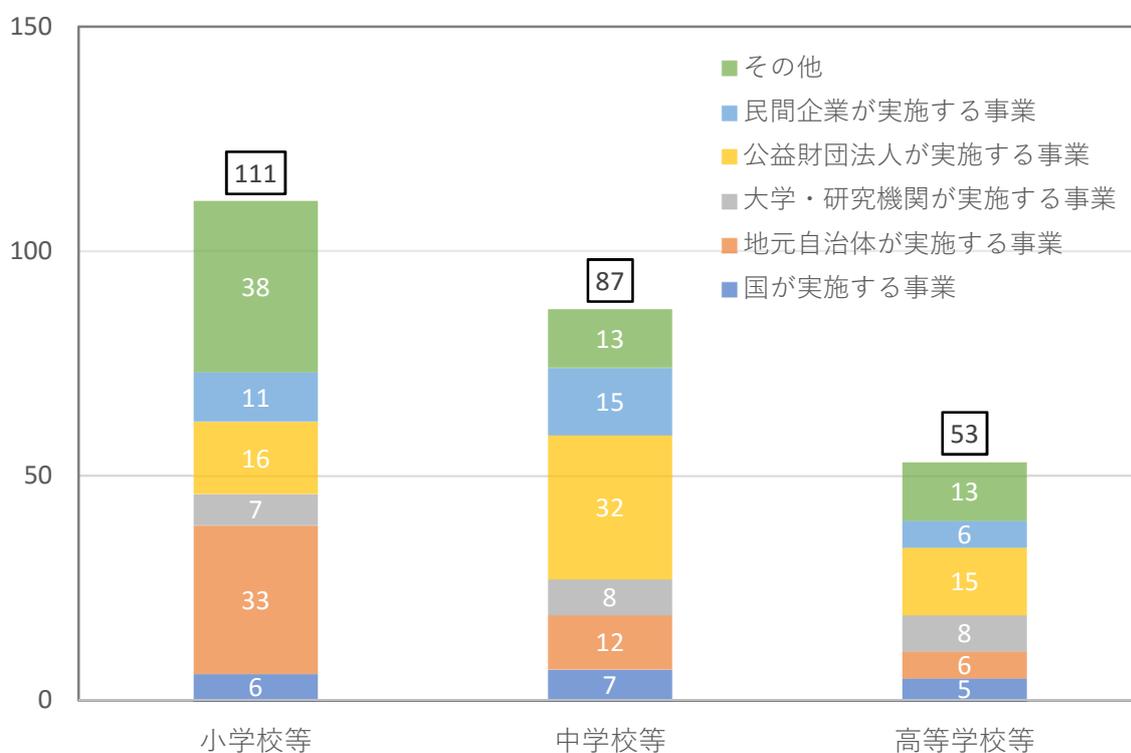


Q1-4 授業等で放射線に関する内容を扱った時や授業等を準備する際に外部人材等を活用しましたか。

(回答数：小学校等 1673 校、中学校等 1377 校、高等学校等 1240 校)



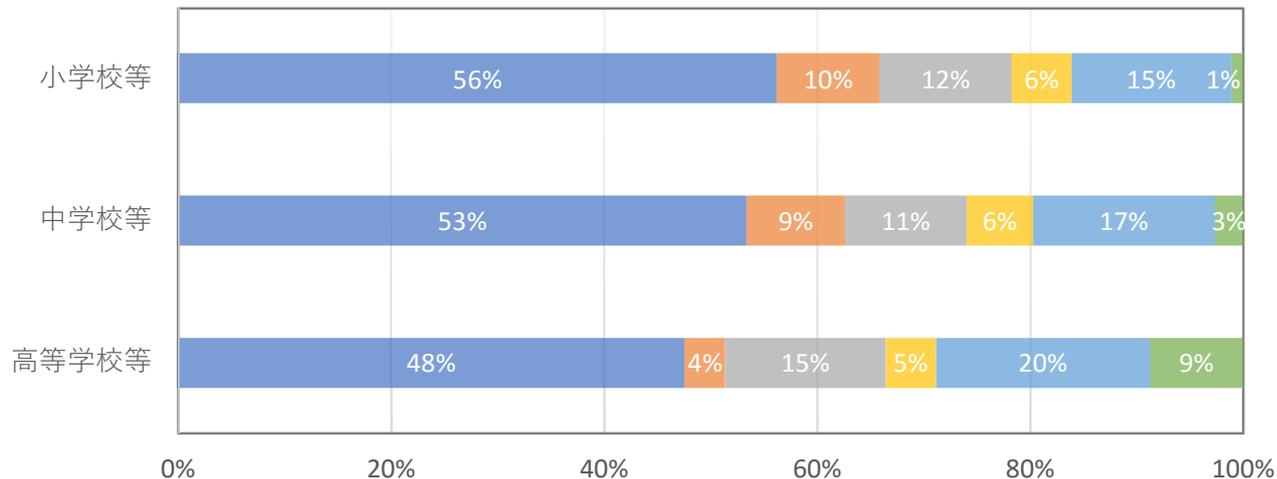
Q1-4 国等が実施する事業（教職員研修・出前授業・講演等）の活用状況（複数回答有）



<放射線副読本の活用状況>

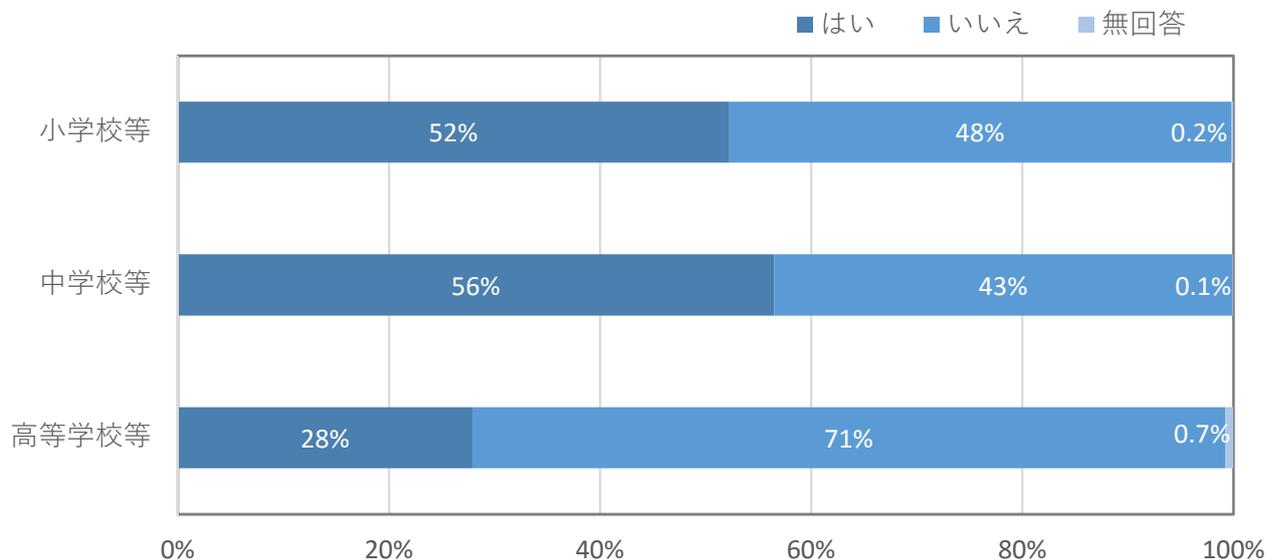
Q2-1 平成30年10月に改訂した放射線副読本の取扱い（複数回答有）

- 全ての児童に配布し、各自の家で保管している。 ■ 全ての児童に配布し、学校で保管している。
- 一部の児童に配布し、各自の家で保管している。 ■ 一部の児童に配布し、学校で保管している。
- 児童に配布せずに、学校で保管している。 ■ その他

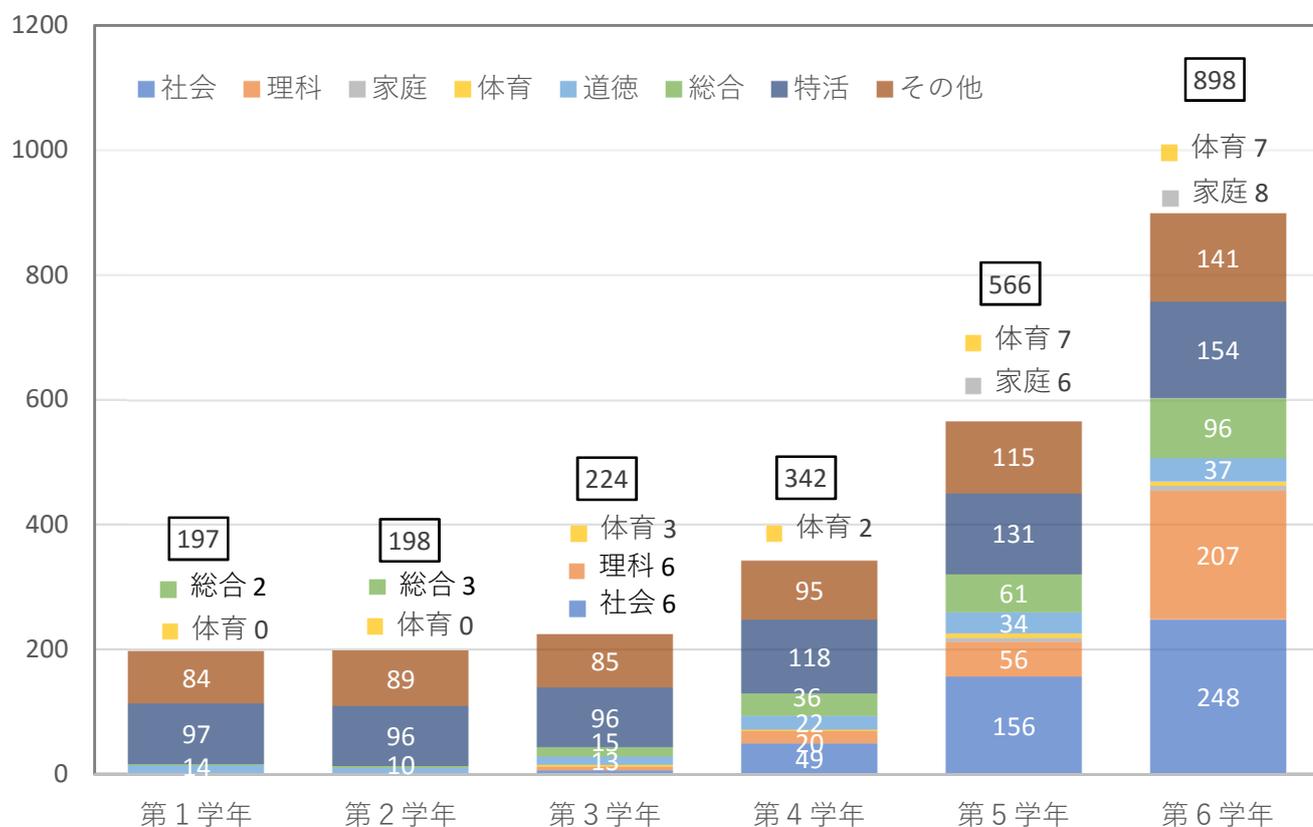


Q2-2 放射線副読本を活用しましたか。

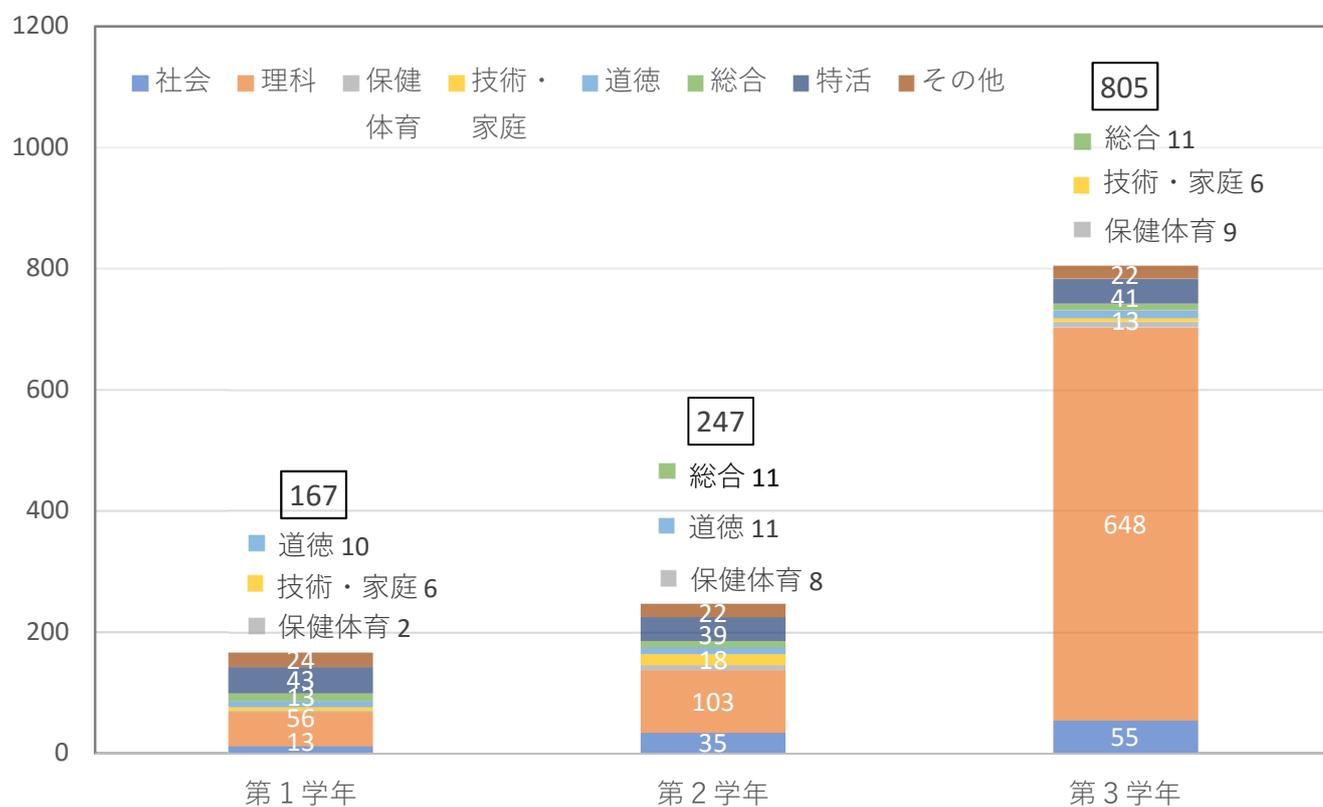
（回答数：小学校等 1673 校、中学校等 1377 校、高等学校等 1240 校）



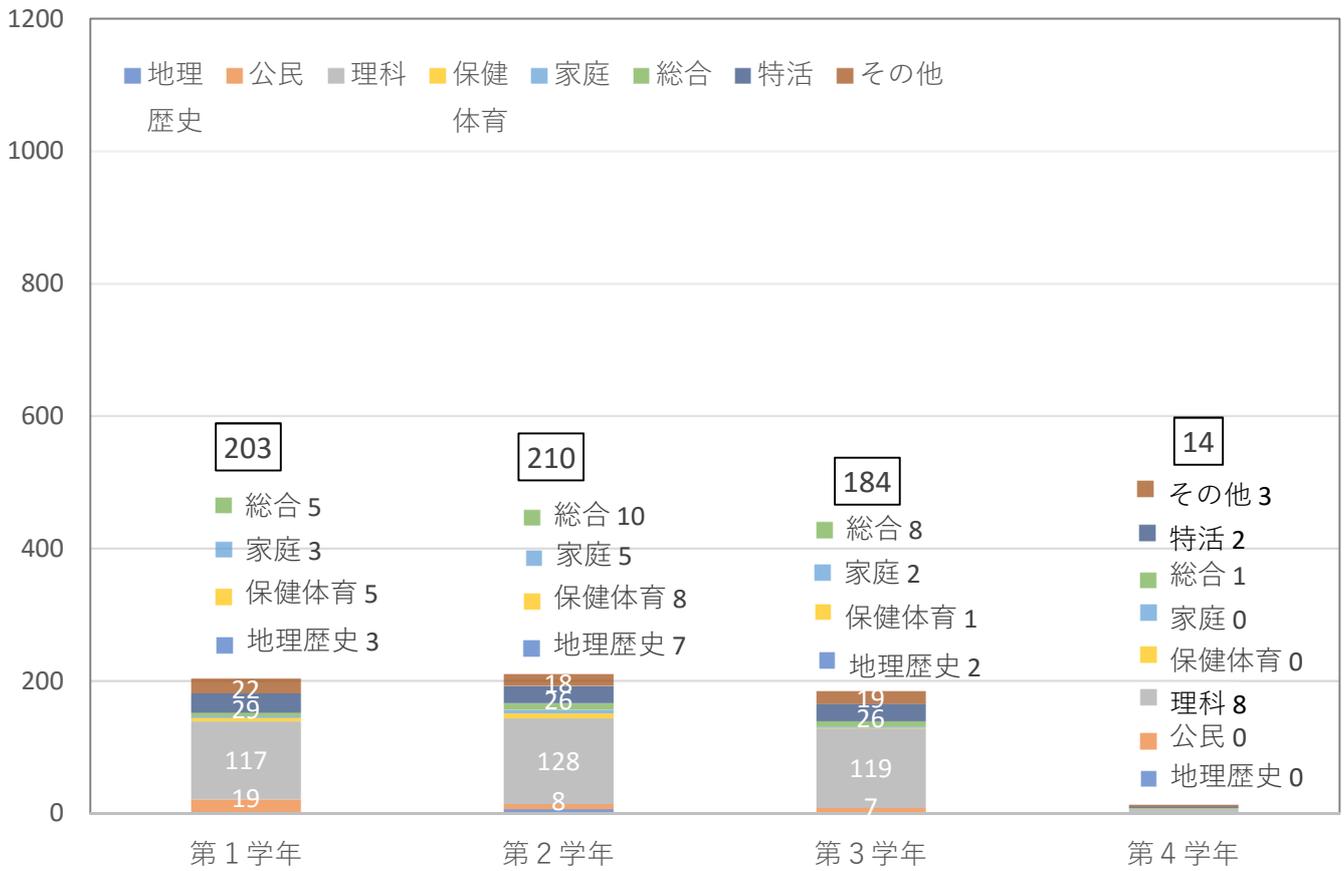
Q2-3 放射線副読本を活用した教科等・学年（複数回答有）
（小学校等）



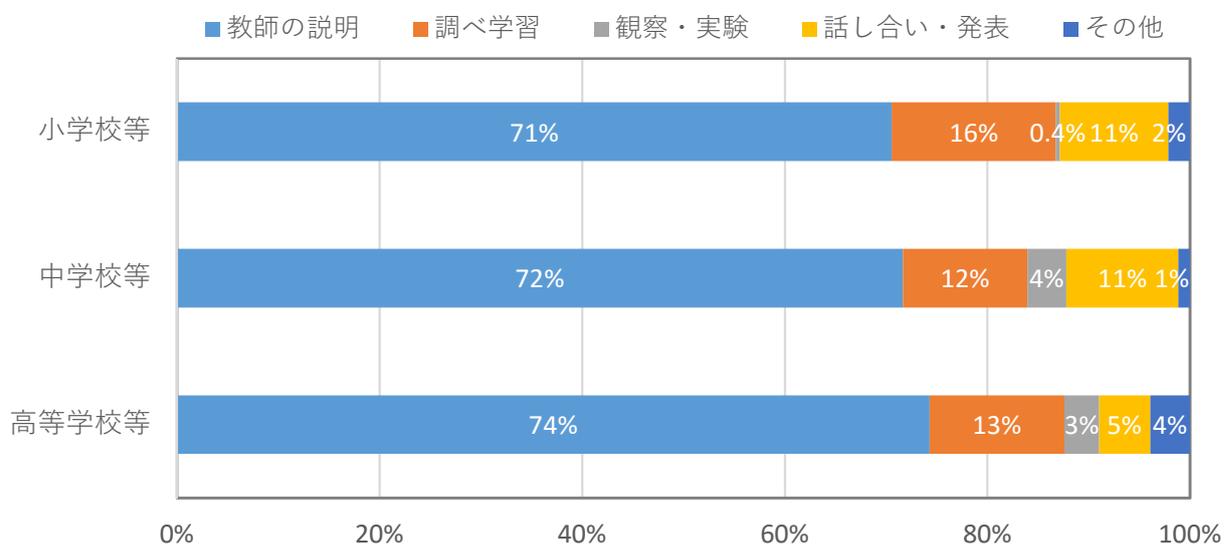
（中学校等）



(高等学校等)



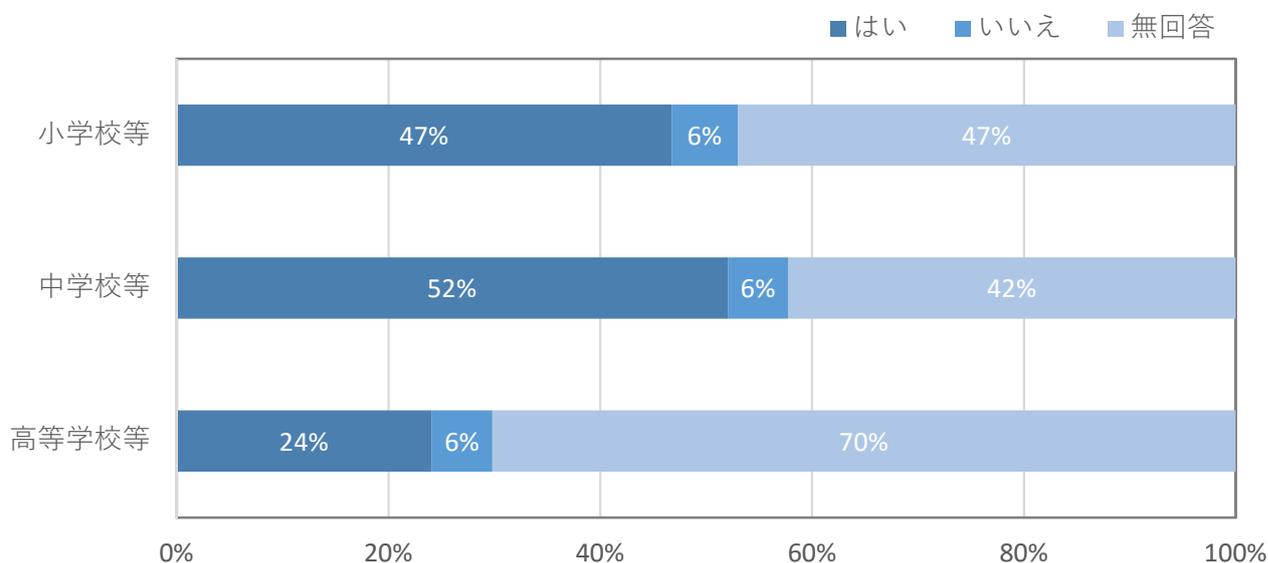
Q2-4 放射線副読本を活用した活動（複数回答有）



○放射線副読本を活用した活動において工夫した点に関する意見の例

- ・教科書、資料集、副読本等を複合的に活用して指導を行っている。
- ・放射線副読本とインターネット上の他の資料との比較をして授業展開した。
- ・内容項目のすべてを扱うのではなく、学年の理解度に応じて取扱いを工夫した。分かりやすい言葉に置き換えてみたり、自分がその場にいたらと考えさせてみたりすることで、副読本の内容をより身近なものとして捉えられるようにした。
- ・理科や社会科の補助資料として活用。学習に対応している項目を抽出して活用した。
- ・放射線について実感を得られるよう、副読本と併用して映像資料を見せたり、観察や実験を行ったりした。
- ・ただ教えるだけにならないように、iPadを用いて、課題の調べ学習を取り入れて、班ごとに発表する形をとった。
- ・地域に関係性の深い内容を多く取り入れた。
- ・教師が福島に行き、見聞した現状を交えて話をした。

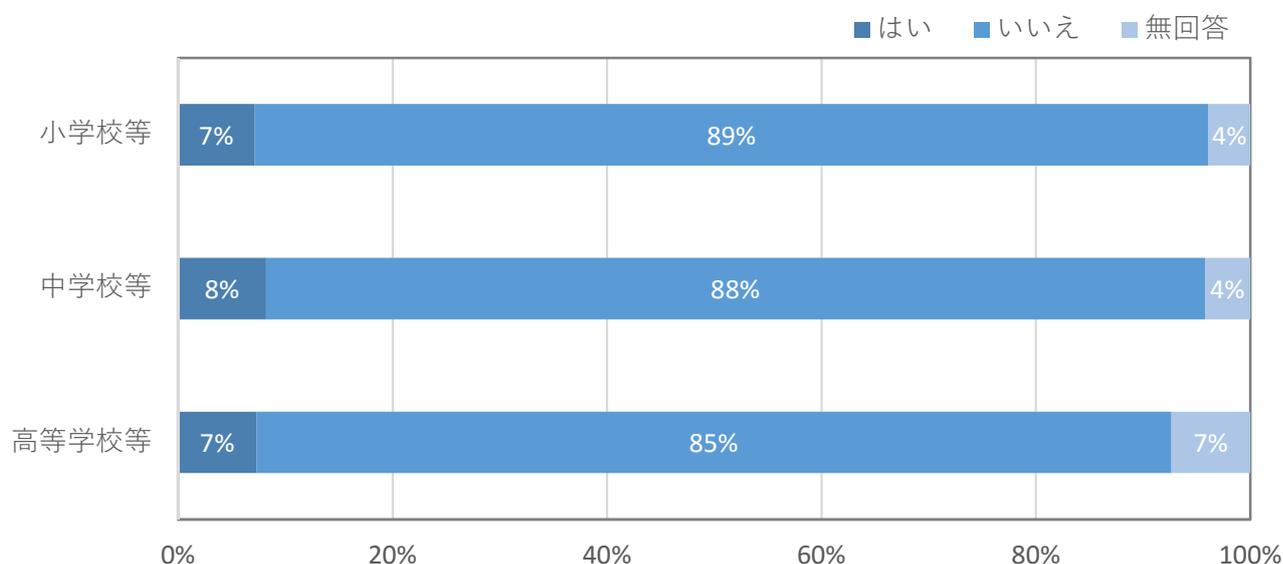
Q2-5 授業等で放射線副読本を活用した際に有効であった点がありますか。
 (回答数：小学校等 1673 校、中学校等 1377 校、高等学校等 1240 校)



○放射線副読本を活用した際に有効であった点に関する意見の例

- ・絵や写真があることで、子供たちにとって分かりやすい。
- ・内容がわかりやすく、教師が活用しやすい。
- ・放射線に関する詳細な説明と優れた特質、また、危険性について両方ともに記述しており、様々な授業で活用できる。
- ・放射線についての基礎的な知識だけでなく、風評被害や差別についても触れられているので、多面的に学習できる。
- ・児童の体験談が書かれていて、自分だったらと考えることができる。
- ・生徒自ら放射線に対する科学的知識と風評被害やいじめについて深く考える機会になった。
- ・教科書よりも内容が詳しいため、理解を深めるために有効であった。
- ・生徒の放射線に対する興味・関心を高めることにつながった。
- ・外部講師が授業で放射線について話した際に、児童が副読本の内容を知っていたため、分かりやすかった。

Q2-6 放射線副読本の内容や構成等について改善・充実すべき点はありますか。
 (回答数：小学校等 1673 校、中学校等 1377 校、高等学校等 1240 校)



○放射線副読本の内容や構成等について改善・充実すべき点に関する意見の例

- ・教科の学習内容とどのように結びついているのかを明確にし、授業内で活用しやすいようにしてほしい。
- ・小学校低学年の指導で扱うことは難しい。低学年用の指導案等があると扱いやすくなる。
- ・内容が障害のある生徒には難しい。
- ・風評を助長してはいけないが、安全性を強調せず、危険性について十分解説すべきである。
- ・危険性を正しく伝えることと同時に放射線の有用性などについても大きく取り上げてほしい。
- ・内容が厚く難しいため、児童にわかりづらく、授業で使いにくい。
- ・現行の教科書に即していない構成になっており、使用するには教員側も事前準備の時間が必要で積極的に活用しようと思わなかった。
- ・社会では安全性、危険性、復興の進捗においても肯定的、否定的な議論があり、さまざまな見解があるなかで教員間からも記述内容の偏り、政治的意図を指摘する意見も多く、現場の教員が使用しにくいものとなっている。
- ・内容が生徒（特別支援学校）の実態に即していなかったため、配布時の口頭での説明にとどめており、授業での活用には至っていない。